

大山町地方創生事業の効果検証結果について
(令和4年度 実施事業の検証)

番号	事業名称	事業内容	事業評価	主な意見
1	<p>全体に通じる取り組み 情報インフラの整備</p> <p>「Instagram」</p> <p>①実績額：214,500円 ②実績額：88,000円</p>	<p>株式会社ローカルマガジンに業務委託。 ①「大山町をキリトル」をテーマに、Instagramアカウントの設計・運用と投稿の一貫性を持たせるコンセプト設計を行った。 ②Instagram活用にかかる職員向け研修会を開催した。</p> <p><担当課分析> 2月から毎日Instagramを活用して情報発信を行っている。 6月現在のフォロワー数は530人。開設直後は閲覧者数が1日500人前で推移していたが、運用3か月後になると300人前後で推移している。 閲覧者数を増やさないとフォロワー数及び関係人口の増加につながらないことから、閲覧者を飽きさせない情報発信の工夫が必要と感じている。</p>	総合戦略のKPI達成に有効	<ul style="list-style-type: none"> ・実際にフォロワーに話を聞いたところ、有名な場所を掲載していることが多く、オフィシャルであれば知名度が低く驚きの場所を載せては？との意見あり。 ・情報発信は重要であり、取り組みを開始したことは評価できる。 特に若い人が多く使うInstagramでの発信は有効である。発信の内容については町職員のスキルが上がってくればフォロワー数も増えると思うので、町内の飲食店の紹介や農作業風景の紹介などを企画し、町内に人を呼び込む取り組みにつなげてもらいたい。 ・閲覧者が増えないと関係人口の増加につながらないので魅力的な情報発信に取り組んでももらいたい。まだ始まったばかりなので今後に期待したいと思う。 ・SNSやInstagramを活用して地域の情報を提供して関係人口を増加させるという事業であるが、他の自治体でもやっている事業であり、特徴がない。大山町ならではの情報発信の工夫をしてほしい。
2	<p>すべての世代の楽しさ 自給率を向上させる 年少世代の人材育成と 総合・探求教育の仕組みづくり</p> <p>「テゴテゴプロジェクト」</p> <p>実績額：1,100,000円</p>	<p>株式会社アマゾンラテルナ鳥取大山オフィス業務委託。 大山町をもっといい町にしていこうと、町内の小学6年生と中学生を対象に「まちの課題を解決するアイデア」の募集を行った。 身の回りの困りごとから、地域、社会の問題まで応募のあった43のアイデアを審査し、小学生部門4組、中学生部門3組の受賞作品を選定した。 受賞者からアイデアを町長へ発表し表彰式を行った。</p> <p><担当課分析> 小学6年生と中学生が身の回りの困りごと、地域、社会問題まで43件もの「まちの課題を解決するアイデア」を提案してくれた。その内7件のアイデアを「その手があったか賞」として選定した。子供たちが主体的に取り組む、学校では学べないことを体験するプログラムへと発展してきている。町の政策を考える上で、子どもたちが提案してくれたアイデアを取り込んでいきたい。今後も各種団体と連携し実施を継続していく。</p>	総合戦略のKPI達成に有効	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが、自分の住む町、地域の課題を見つけ、その改善策を考えてくれることは有意義。 ・自分たちで自分の住む町をよくしていこうという機運の醸成につながるもので町内の小中学生にとって良い取り組みだったと思う。提案だけで終わることのないよう事業化に向けて取り組んでももらいたい。 ・「まちの課題解決アイデアコンテスト」という題目は、少し小中学生には固い気がしたが、応募が43作品あったのは評価できる。若い世代に地元の問題点を考えてもらう機会を与え、人前でプレゼンする能力を磨き、大人と一緒に地元のことを考える。当初目的の「地域課題解決」「人材育成」「世代間交流」「地元愛着」が上手く組み込まれたすばらしい取り組みだと思う。ぜひ継続していただきたいし、児童・生徒のアイデアを実現してもらおうよう頑張ってもらいたい。中学生の3作品は少し寂しいので、もう少し参加してもらえよう努力が必要か。

番号	事業名称	事業内容	事業評価	主な意見
3	<p>定住、子育て、健康維持のための仕組みを作る 家庭から子育て社会の実現</p> <p>「ガイナレ鳥取による放課後児童クラブでのむかし遊び」</p> <p>実績額：450,001円</p>	<p>株式会社SC鳥取に業務委託。 ガイナレ鳥取と放課後児童クラブが連携し、ひとりで家にいる子どもや集団での遊びの経験が少ない子（運動・経験不足）にのっての放課後等の居場所づくりとなる取り組みを実施した。</p> <p><担当課分析> 放課後児童クラブでガイナレ鳥取のプロサッカー選手と鬼ごっこやだるまさんが転んだ、リレーなど身体を使った「公園遊び」を実施した。「公園遊び」を通じて外で遊ぶこと、友達と仲良く過ごすことの大切を経験する良い機会になったと感じている。 放課後児童クラブでもこの取り組みを参考に子どもの居場所づくりに取り組んでいく必要がある。</p>	総合戦略のKPI達成に有効	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の居場所を作ることを目的とするならば、放課後児童クラブ利用者以外にも参加できる活動が望ましい。児童クラブ利用者はすでに居場所があり、児童が誰でも利用できる場所が必要ではないかと思う。 ・放課後児童クラブ利用者を中心に「体験できないことを体験できるようにする」取組として有意義。「居場所作り」にも貢献出来る事業であり、継続実施を期待。 ・参加できる子供の年齢層や児童クラブと限定されていることが残念である。今後男性の育児参加なども考えていくのであればなるべく多くの対象者を考えていただきたい。 ・ガイナレ鳥取と放課後児童クラブが連携して、一人で自宅にいる子どもや集団での遊び経験が少ない子どもに対して放課後の居場所づくりとなる取り組みであるが、子どもたちにも喜ばれて、その意義は大きいと思う。今後は、当該事業が継続して行われるための推進体制や周知を徹底して、多くの子どもが参加できる工夫をしてほしい。
4	<p>定住、子育て、健康維持のための仕組みを作る 暮らしに関する選択肢を広げる</p> <p>「若者世代の人口戦略Uターン・関係人口促進のための現状調査」</p> <p>実績額：1,199,000円</p>	<p>慶應義塾大学SFC研究所に業務委託。 若者世代（18～29歳）の移住（IUターン）および関係人口としての活動の実態と課題を、RESAS（地域経済分析システム）や大山町人口動向分析及び将来人口推計（2015）などの諸データをもとに調査分析を行った。</p> <p><担当課分析> 2022年度の慶應義塾大学の实態調査によって、10年後には町内の出生者数は半減することが予測された。 調査報告書によると、魅力的な働く環境と暮らし、魅力的な子育て環境を作ることによってIUターン者数の増加につながり人口ピラミッドが維持できるという調査結果が示されている。 この調査結果を踏まえて、人口戦略の攻めのうち手など総合戦略を強化する必要性を感じている。</p>	総合戦略のKPI達成に有効	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業で得られた報告書は、大山町の抱える問題点を第三者の目から客観的に調査及び評価しており、大変有効な成果物だと思う。将来目標がきちんと数字で示されており、KPIの指標となり得る。 ・今回の調査、分析結果を踏まえ、その先の人口流出を止める或いは、IUターンがしたくなる魅力ある町づくりに繋げていくことが大切になっている。 ・大学の専門的な知見に基づいたデータを取ったことは意義がある。高校卒業時以外には流出が少ないなど意外と見えていない数字もあぶりだせたように感じる。問題はこのデータを如何に活用するか。対策に十分活かすべき。 ・慶應義塾大学に委託して若者世代や関係人口の現状を分析することは問題ないと思うが、この分析報告書をどのように活用するのかが不明確である。何のための分析報告書なのか、その活用をしっかりと検討していただきたい。

番号	事業名称	事業内容	事業評価	主な意見
5	<p>定住、子育て、健康維持のための仕組みを作る 子育て環境整備事業</p> <p>「大山西放課後児童クラブ施設改修ほか」</p> <p>実績額：6,009,252円</p>	<p>鳥取銀行から無償譲渡を受けた建物を大山西放課後児童クラブ施設へ改修する工事に合わせ、クラブ敷地内の花壇の整備と安全のためのガードパイプの設置を行った。また、クラブ内のカウンターやエアコン等の備品の整備、座机や玩具等の消耗品購入を行った。</p> <p>大山西児童クラブ以外の4か所のクラブにも、玩具等の整備と児童の生活に必要な備品等を購入した。</p> <p>町内3か所の子育て支援センターには、大型遊具や大型絵本など、備品の購入と玩具の購入を行った。</p> <p>大山町の子育て支援を一つにまとめたパンフレット「子育てに便利な1枚」を作成した。</p> <p><担当課分析> 大山西児童クラブにおいては、改修に伴い備品等を整備充実させたことで、より安全で充実した生活が送られる場としての提供が可能となった。その他のクラブにおいても、備品や玩具等が充実したことで、生活する空間が整備されたこと、子ども一人一人が自分の好きな遊びの選択肢を広げられたことが改善点である。</p> <p>子育て支援センターでは、コロナ禍での利用制限にも関わらず利用者の激減は見られなかった。特に利用者の少なかった支援センターなわにおいては、後半の利用者数の増が見られ、大型玩具等の購入による効果が見られた。</p> <p>子育て支援のパンフレットには妊娠から高校生までの幅広い支援を一つにまとめることで、母子手帳交付時や産後訪問時などの節目および転入時に、町の支援策を長い目で伝えられ、また地域自主組織の情報を掲載することで地域と一体となった子育ての取組みの充実を目指す方向性を示すことができた。</p>	<p>総合戦略のKPI達成に有効</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子供を安心して預けられる放課後児童クラブや、子育て支援センターの整備は必須。今後も環境整備等に注力いただきたい。 ・鳥取銀行の資産を有効活用することで町の施策を充実させることが出来ており、高く評価する。 子育て支援に関するパンフレットも、妊娠時から子育てに関する施策が経時的に掲載されており、便利だと感じた。今後は、施策の追加・変更・中止などが発生した時点で、町民に対してきめ細かく発信していくことを期待する。 ・放課後児童クラブと子育て支援センターの備品や玩具の購入によりそれぞれ充実が図られたことがよかった。今後も利用者のニーズをくみ取りより良い子育て環境になるように取り組んでもらいたい。 ・大山西児童クラブ施設の改修に伴う備品等を充実させることは、それ自体問題はない。今後は、その施設充実にたいする利用ニーズの調査を行い、利用者の満足度を高めることを目指していただきたい。

番号	事業名称	事業内容	事業評価	主な意見
6	<p>地域の人材と新たな人材で産業を発展させる販路拡大</p> <p>「大山町産業発展継続事業補助金」</p> <p>実績額：767,000円</p>	<p>地域課題解決のために新規事業及び販路拡大に向けた以下の7事業に対し、経費の一部の補助を行った。</p> <p>①町内高齢者の生活利便性向上のための家電製品洗浄サービス事業への参入</p> <p>②サイクリスト・ライダー等の誘客に向けた販路開拓事業</p> <p>③写真撮影事業を通じた成婚・終活サポート</p> <p>④町内高齢者のためのハウスクリーニング事業への参入</p> <p>⑤大山町の地域資源を活用したお土産ブランドの開発</p> <p>⑥町内産大豆を使用した豆腐のPR・販促事業</p> <p>⑦大山町の新たな特産品開発と新規顧客獲得に向けた取り組み</p> <p><担当課分析> 本事業の実施により、本町の様々な地域課題解決のためのきっかけを作ることができた。今後も本事業を実施しつつ、補助を受けて開始した事業の継続・発展に向けた支援を充実させていく必要がある。</p>	総合戦略のKPI達成に有効	<p>・かなり自由度の高い補助金で賛否はあるかと思うが、町内事業者の維持・増加を目指す上では評価できると思う。町にお店があることは活気につながる。会議でも指摘があったが、補助額や補助率には検討の余地があると感じる。特に額は1件あたりを増やしても良いのでは。事業者や商工会の意見を汲んでほしい。</p> <p>・町内事業者が、事業を維持継続するために、新規事業や販路拡大の取組にかかる経費の補助を行って頂くのは、事業者にとって大変ありがたい補助金であると思うが補助金が1/2補助で上限125,000円で少額である。又、設備にも使えないので補助金額を1/2補助で上限250,000円であると活用させていただきやすいと思います。</p> <p>・支援を受けた事業者のその後の状況がわかると良いと思う。</p> <p>・地域課題解決に向けた7事業に対して経費の一部補助を行うものであるが、ひとつの事業に対する補助額が少なく、利用する側から見て、補助金の使い勝手があまりよくないと思う。資金が有効に活用されるように制度の工夫をお願いしたい。</p>
7	<p>地域の人材と新たな人材で産業を発展させる事業承継者育成、人材不足への対応</p> <p>「スキマ時間プロジェクト」</p> <p>実績額：946,000円</p>	<p>株式会社週末住人に業務委託。</p> <p>HP、LINE、フェイスブック、チラシを活用して事業者と働き手を募集し、働き手と事業者のマッチング交流会を4回実施した。</p> <p>働き手11名、事業者15名の参加があり、8事業者に対して述べ14名の働き手がマッチングし、繁忙期に人手不足で困っている事業者とスキマ時間で収入を得たい働き手とを繋いだ。</p> <p><担当課分析> 令和4年度は「仕組み化」の年であった。 マッチング実績は僅かではあるが繁忙期に人手不足で困っている事業者とスキマ時間で収入を得たい働き手とを繋ぎ、地域課題解決のためのきっかけを作ることができた。 事業者、働き手ともに参加者が少ないことから、今後は認知度向上に向けた戦略と仕事・求人のバリエーションを増やすことにより実績を上げる必要がある。</p>	総合戦略のKPI達成に有効	<p>・農業以外の産業についても人不足があり、他産業への取組にも拡充を図ってほしい。</p> <p>・多様な働き方ニーズに応えるためマッチング交流は必要だと思うが、農業以外の小さなニーズもたくさんあると思う。これをどのようにくみ上げるか、また、今後継続してできる方法を考えるべき。</p> <p>・事業目的の着眼点はよく、主婦等非就労者のすきま時間を活用した就労マッチングはニーズありと判断。一方同種の既存サービスは存在しており、利用しやすさ・対象職種の拡大等の検討が必要。</p> <p>・本事業の目的とほぼ重なる「daywork」というアプリが存在するため、本事業との仕分けが必要。</p> <p>・大山町内の潜在的労働力と人手不足の農家や農業法人のマッチングを行う事業であるが、そのマッチングの仕組みがうまく機能しているのか疑問を感じる。事業のニーズはあると考えるので、マッチングの仕組みの改善をお願いしたい。</p>

番号	事業名称	事業内容	事業評価	主な意見
8	<p>地域の人材と新たな人材で産業を発展させる新たな働き方</p> <p>「大山町人口減少対策事業の推進に関するアドバイザー業務」</p> <p>実績額：1,584,000円</p>	<p>(一社) WorkDesignLabに業務委託。</p> <p>令和3年度に大山町とWDLが締結した連携協定のテーマである「仕事づくり」「教育(オンライン教育)」「アウトドアフィールドの活用」「少子化対策」のうち、令和4年度は「教育」を中心に事業を推進した。</p> <p>大山町総合文化祭で生涯学習をテーマに教育シンポジウムの開催。仕事づくりをテーマにオンラインイベントの開催。生涯学習大会で英語教育・生涯学習をテーマに英語教育について探求した。</p> <p><担当課分析></p> <p>令和4年度は、大山町総合文化祭で「教育」をテーマにしたトークセッションや、「仕事」をテーマにしたオンラインイベントの開催を通じて、人口減少に関する課題、大山町で起業・副業することの課題、魅力について、住民の方に知っていただく機会の創出と町外関係人口との企画連携の事業を行った。</p>	総合戦略のKPI達成に有効	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町外の識者や実践者との交流は継続的に必要で、その場を積極的に作っている活動は評価できる。山陰では思いつかないダイナミックな発想や、圏域の良さを気づかせつ取り組みはもっと活発にやっていくべきだと思う。今回は教育中心だったようだが、起業につながる取り組みを考えるべきか。 ・ 多様な視点で大山町の人口減少の課題に向き合っている点が良いと思う。 ・ 生涯学習をテーマにしたシンポジウムや仕事づくりをテーマにしたオンラインイベントの開催などを実施したとのことで、これらの事業それ自体は問題ない。今後は、これらの成果をどのように活かすのか、その戦略を検討してほしい。
9	<p>地域の人材と新たな人材で産業を発展させる小さな商いや地域商社への支援</p> <p>町内事業者連携事業業務委託(DAISEN KICKSTART)</p> <p>実績額：1,545,000円</p>	<p>合同会社HACKLABに業務委託。</p> <p>事業立案に向けた5回のワークショッププログラムにすべて参加できることを条件に、町内在住者9人から申し込みがあった。30～40代の社会人を中心に、起業や法人化、事業成長を目指す20代大学院生から60代移住者まで幅広い住民が参加した。</p> <p>立案した事業計画を、金融機関、商工会、行政にプレゼンテーションすることで、的確なフィードバックも得られ、新たな視点や方向性を見出す機会となった。</p> <p><担当課分析></p> <p>単発型の起業イベントと違い、2ヶ月にわたってわたってプログラムを行ったことから参加者同士の親睦、交流が深まりコミュニティの役割も果たした。</p> <p>起業後の事業発展・成長には、新しい人脈との出会い、地域や業種を越えた継続的な必須となるが、今回のプロジェクトは、その土台を形成する場となった。</p>	総合戦略のKPI達成に有効	<ul style="list-style-type: none"> ・ このプロジェクトは起業に関する悩みを持つ者が集まり、ワークショップやプレゼン発表を行うことが特徴で、今まで無かったタイプの事業で、対応も非常にきめ細かいものとなっており感銘を受けた。 ・ 本来事業の目的に加え、異業種間の交流の場が創出されたということで、相乗効果が生まれたことが評価できる。今後は、今回の参加者同士の交流活動から生まれる新たな展開が期待出来るのではないかと感じた。 ・ 事業者の成長を支援する取り組みとして、大変意義深い取り組み。複数回のワークショップを重ねた上での事業立案、プレゼンテーションは、事業者の実力を伸ばすものと考えている。銀行他企業と行政、商工会が一体となっており、重厚感があり、事業者にとっては相談できる人脈ができることで心強いのでは。この事業もこの後の取り組みが重要になってくると思うので、しっかりサポートしてほしい。 ・ 起業家育成のためのプログラムを実施したとのことで、これらの事業それ自体は問題ない。今後は、これらの成果をどのように活かすのか、その戦略を検討してほしい。

番号	事業名称	事業内容	事業評価	主な意見
10	<p>地域の人材と新たな人材で産業を発展させる社会的課題解決への起業</p> <p>「大山町空き施設活用創業等支援事業補助金」</p> <p>実績額：9,990,000円</p>	<p>令和4年度は町内の既存施設を活用して新規創業した2事業者に対して補助金を交付した。本事業により、</p> <p>①大山町産野菜を活用した古民家アンテナカフェ ②町内産の食材を活用したラーメン店の2件の新規創業につながった。</p> <p><担当課分析> 令和4年度に実施した事業により、町内の空き施設の解消、雇用の場の創出、地域の賑わいの場の創出、事業承継等の地域課題の解決につながった。また、本事業の採択事業者以外にも町内での起業を検討する者が増加傾向にあるため、今後も創業者に対する支援を実施する。</p>	総合戦略のKPI達成に有効	<ul style="list-style-type: none"> ・2店どちらも人気となっているし、地元の食材や地域の人が連携していて大山町は県西部で最も古民家の活用がうまいと感じる。すばらしい。 ・今回は2件とも飲食店であったが、飲食店の少ない大山町にはよかったと思う。空き家対策にもなっていると思う。 ただ、施設改修、設備等、安価でないので、やはり補助金の額の上限1件につき500万円は魅力だと思いが多いなという気がする。 ・補助金額について昨年検証委員会で意見がでていたが、昨年と同じ金額のようだった。希望する町民も多くなっていると聞いている。額を下げて多くの人が起業できるよう考えても良いのではないか。 ・雇用の場の創出にもつながってほしいと思う。 ・補助する事業が飲食店に偏っている。地域には様々なニーズがあり、バランスのとれた補助金の活用になるように制度の工夫をお願いしたい。
11	<p>地域の人材と新たな人材で産業を発展させる町内周遊のための体制強化</p> <p>「大山町観光地域づくり連携体制構築検証業務委託」</p> <p>実績額：2,970,000円</p>	<p>一般社団法人大山観光局に業務委託。</p> <p>町内の商工等関連事業者との意見交換会、来訪者へ対する消費者調査等を行い、観光地域づくりに向けた体制の構築、検証を行った。</p> <p><担当課分析> 本町へ対する消費者ニーズの解像度が高まった。また、観光地域づくりに向け、それを担う中心的組織を新たに設置する必要性が明らかになった。</p>	総合戦略のKPI達成に有効	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業による調査、提案もあり、実際に観光課内にDMO準備室が設置され今年度の事業に繋がっている。 ・大山寺の宿泊について調査・分析が細かくされている。この結果を今後活かしていくのが課題。 ・大山町内の商工業者などとの意見交換会の開催や観光客のニーズ調査を行ったとのことであるが、このこと自体は問題ないと思うが、この分析をどのように活用するのかが不明確である。何のための分析なのか、その活用をしっかりと検討していただきたい。

番号	事業名称	事業内容	事業評価	主な意見
12	<p>地域の人材と新たな人材で産業を発展させる日本海と大山をつなぐ事業強化</p> <p>「大山町レンタサイクルシステム構築検証業務委託」</p> <p>実績額：3,790,000円</p>	<p>株式会社Blue. に業務委託。町内4か所の施設で無料の7月～12月レンタサイクル業務を行い、民間事業者がレンタサイクルシステムの業務を行う場合の、運営手法の検証と課題の整理を行った。</p> <p><担当課分析> 町内4施設でのレンタサイクルを運営を行い、レンタサイクルを運営する上での課題についての整理を行った。</p>	総合戦略のKPI達成に有効	<ul style="list-style-type: none"> ・山・海其自然豊かな大山町にあった事業だと思う。有料事業化へはまだ乗り越えるべき山はあるかと思うが、全国的にも話題になる事業になる可能性はあるのではないかと考える。昨年度自転車を購入し、今年度がスタート年度として組織づくりや取り組みは順調にできていると思う。海チャリ、山チャリ、デリチャリなどネーミングセンスも良いし、飲食と絡めているところも評価する。レンタサイクルで収益を得るのではなく、周辺事業者が潤えば成功と考える。 ・レンタサイクルを利用した観光客からの意見や感想、アンケートなどを参考にしより利用しやすい満足度の高い事業にしていきたい。 ・海から山をつなぐ周遊観光は、一般的な観光客にとって1日では電動サイクルでもハードルが高い。宿泊込みの魅力的なツアー組成が必要。 ・大山町は今後の観光戦略としてサイクリングを検討しており、本事業によりレンタサイクルの事業の検証を行った。ぜひ、今後もこのような検証を行い、大山町におけるサイクルツーリズムを根付かせていきたい。
13	<p>地域の人材と新たな人材で産業を発展させる大山スキー場周辺のグリーンシーズン活用</p> <p>「グリーンスローモビリティ運行による来訪者満足度向上検証業務」</p> <p>実績額：3,190,000円</p>	<p>皆生タクシー株式会社に業務委託。令和4年7月30日から令和4年11月13日までの間で、30日間無償による試験運行を行った。</p> <p>また、観光マイスターの資格を持つドライバーが、観光案内しながら運行することで移動手段だけでなくアクティビティとしての要素を加え、満足度向上を図り、観光資源となりうるか検証を行った。</p> <p><担当課分析> アンケートの結果からは利用者満足度が高いことがうかがえた。</p> <p>しかし、短いコースで回転率高く運行しなければ採算ラインに届かないこと、利用者の利用意向度からは収益性が見込まれないことなどが明らかになり、収益性のある事業としての実施は難しいと想定される。</p>	総合戦略のKPI達成に有効	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者満足度は高く、期間限定でも採算可能な料金で実行してもよいのではないかと考える。 ・高齢化の進む中で良い取り組みであったと思う。料金的に観光客の評価は低いものであったようですが、移動と案内があるのでおそらく300円（採算ライン）より高くても良いのではないかと考えます。大山に重点箇所を設け、PRを効果的に打って事業を支えていただきたい。 ・料金設定について、片道300円でも利用者は十分にあると思われる。往復300円ならば安すぎる。 ・大山町は今後の観光戦略としてグリーンスローモビリティを検討しており、本事業により本事業が観光資源となるのか、検証を行った。その成果はあまり良いものではなかったようであるが、今後もこのような検証を行い、大山町における独自の観光戦略を策定していきたい。